

第4回「地域フォーラム」概要  
 開催テーマ テーマ1「健康・医療・介護」  
                   テーマ2「協働と連携のまちづくり・奈良モデル」  
 日時 平成28年1月16日(土)14時～16時30分  
 会場 宇陀市室生振興センター

【テーマ1】「健康・医療・介護」

<p>挨拶・ 資料説明</p>	<p>荒井奈良県知事        地域フォーラム開催の挨拶        資料説明        ・奈良県の人口推移        ・市町村別人口比率の推移        ・奈良県の健康寿命        ・地域医療構想の策定        ・奈良県の2次医療圏        ・急性期の機能分化・連携体制の構築        ・救命救急医療への対応        ・地域包括ケアシステムの構築 など</p>
<p>取組説明 ①</p>	<p>竹内宇陀市長        宇陀市の現状と行政の取り組みについて説明        ・地域包括ケアシステムの構築の推進        ・医療介護あんしんセンターの開設        ・宇陀市地域包括ケアシステム全体構想策定事業 など</p>
<p>取組説明 ②</p>	<p>窪田山添村長        山添村の現状と行政の取り組みについて説明        ・健康山添21(2期)計画に基づく取り組み        ・健診等の実施と受診率の向上への取り組み        ・村内3診療所の運営と維持・充実        ・介護予防事業(ひだまり広場・サロン事業等) など</p>
<p>取組説明 ③</p>	<p>芝田曾爾村長        曾爾村の現状と行政の取り組みについて説明        ・糖尿病の発症予防と重症化予防の取り組み        ・村民一人ひとりがお互いに見守り合う環境づくり        ・地域包括ケアシステムの構築に向けての取り組み</p>
<p>取組説明 ④</p>	<p>伊藤御杖村長        御杖村の現状と行政の取り組みについて説明        ・介護保険抑制のための取り組み          「介護保険認定調査」「ケアプラン作成」の適正実施          村民の自立意識の高さ        ・介護予防への取り組み など</p>

<p>取組等 説明</p>	<p>奈良県立医科大学健康政策医学講座 今村教授</p> <hr/> <p>テーマ「健康・医療・介護」について取り組み等説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年における慢性的な疾患を抱える高齢者や要介護人口の増加</li> <li>・国の新法による病床再編と在宅医療へのシフトを進める政策誘導</li> <li>・地域医療構想の策定について <ul style="list-style-type: none"> <li>急性期中心の医療から慢性期の医療へシフト</li> <li>在宅医療と在宅介護サービスの需要爆発</li> <li>在宅医療の問題点(訪問看護師の不足、老々介護 など)</li> </ul> </li> <li>・奈良県の現状(要介護認定者数の増加、訪問看護師の不足 など)</li> <li>・地域包括ケアシステムの構築 など</li> </ul>
-------------------	---

意見①	荒井奈良県知事
<p>今日のお話は、医療と介護、生活支援の部分に分かれますが、行政の方では、医師、看護師、介護士といった、ケア、サービスを提供する側の人をどう確保するかということが共通の課題でございます。また、在宅医療と言っても、各地域では医師が高齢になり、なかなか診療所を離れられないことが多いのが普通でございます。この現状をどうするのかということは共通の課題のように感じました。</p> <p>もう一つは、健康長寿と介護保険料についてです。この地域の健康寿命は、御杖村が最も良いほうで、介護保険料も一番低くなっています。男性の平均自立期は川上村が一番高く、介護保険料は、御杖村、川上村、下北山村の順に低くなっています。健康長寿の村、地域は当然ですが、市町村ごとに支払っている介護保険料も安くなっているということでございます。無理して安くしてるわけではなく、健康を確保した結果です。</p> <p>健康確保の2つ目のテーマですが、高齢者が運動したり、体を動かしたり、運動でなくても何か仕事をされている地域は健康的な方が多いというように言われております。これは農山村だと、やむを得ず働かないと誰も体を動かす人がいないということで、体を動かす結果になっている面もあると思いますが、むしろ高齢になると体を動かすようにと言われてるのが実情でございます。その良い例が御杖村ですので、健康寿命を延ばす方法として、御杖村モデルを宣伝しなければならないというように思ったところでございます。</p> <p>最初の人材確保の話に戻りますと、まず医師がいないので、医師をこの地域で増やすことはなかなか難しいと思います。医師の代わりに増やすしかありません。医師の代わりに例えば在宅を訪問する在宅医療のチームはどのような人で構成されるのかということでございますが、宇陀市では保健師が中心になってやっていただいています。訪問医療チーム編成をどうするのか、医師がいないときにどうするのかということは、全国的な課題でございますが、たとえば村の保健師や看護師、介護士あるいは歯科医師です。また、薬の飲み過ぎはだめとさせていただき、薬剤師のような人も必要なわけでございます。そのような方々でチーム編成をして、できるだけ他の人の仕事もできるようにするというのが、これからの1つの知恵だと思います。</p> <p>もう一つは、医師がいないと最期の看取りができない、ご臨終ですと言うのは医師だけだと言われております。そこで、スマホなどのICTで医師へ情報を送り、この薬を与える必要がありますよと看護師、あるいは薬剤師さんが伝え、医師が対応することのできる遠隔医療が必要であると感じました。遠隔医療であれば、医師は宇陀の地域に住んでいなくてもよいわけです。例えば、大阪や奈良市内に地域のかかりつけ医がいるということでもよいわけです。そのようなことを発想させるような実情でございます。健康長寿のモデルになり得るような感じがいたしましたので、そのことを付け加えさせていただきます。この地域のモデルをつくり上げたいというように改めて思います。</p>	

意見②	竹内宇陀市長
<p>誰も健康は大きな課題で、自分自身が努力しなければいけないのですが、宇陀市の場合は高齢化率も非常に高くなってきておりますので、若い人たちが支え切れないのではないかと思います。そこで、高齢者自身が健康に留意しようということで、ウェルネスシティ宇陀市という政策を率先して実施し、地域で様々な活動をしていただいております。しかし、健康であっても、やはり介護が必要なときはいずれ来るわけでございますし、また、病気になることもあろうかと思いますので、その時のための連携する施設として宇陀市の医療介護あんしんセンターを設置させていただいて、その中でうまく機能できたらと思っております。誰もが自宅で安心して過ごせるということが大きな命題であろうかと思いますので、急性期の病床だけではなく、療養型の病床も宇陀市立病院では備えていただき、しっかりとその受け皿づくりを今、着々と院長を中心につくっていただいておりますので、その環境は整いつつあるのではないかと思います。ですから、安心して自宅で療養できる、そして少し病気になれば市立病院に入り、また自宅へ帰っていくと、そのようなスパイラルが上手く回っていかれたらと思っております。</p> <p>先程、介護保険料の話もありましたが、宇陀市は非常に高い位置にございますので、私も率先して、生涯現役でいきましょう、生涯健康でありましょう、生涯楽しく働きましょうというような政策を実施させていただいております。また、まちづくり協議会という組織を立ち上げ、地域の方々の御支援もいただきながら地域サロンなどの活動もしていただいておりますので、少しではございますが、健康に対する関心が高まってきたのではないかと考えております。これからも市民の皆さん方の期待に応えられるような形で、また、うまく連動するような形で運営できたらと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。</p>	

意見③	窪田山添村長
<p>山添村は、高齢化率が高いので、私が老人会や、あるいはいろいろな会合に行った時には、健康寿命の延伸をしていく必要があるといつも言っております。特に山添村では、6面の屋内ゲートボール場があり、そこで寒くても暑くてもいつもゲートボールをやっておられるわけですが、挨拶の際には、健康で長生きをしてほしい、またこういった活動で親睦も深めていただきたいということを常々言い伝えております。</p> <p>また、医療費が低ければ、皆さんからいただく国民健康保険税も安くすみますので、しっかりと健康を守ってください。、そして少し調子が悪い時は早期に診療所へ行って診てもらうようにしてくださいということを常々言っております。昨年、一昨年あたりに医療費が少し上がってきましたので、仕方がない部分もあろうかと思いますが、できるだけ健康を心がけていただくよう村民の方にお願ひし、また、PRや支援も行っているところでございます。</p>	

意見④	芝田曾爾村長
<p>先程、今村先生のお話の中にもございましたが、今後、団塊の世代が75歳以上となります2025年に向けて、生まれ育った地域で最後を過ごすことができるように、地域包括ケアシステムを構築していかなければならないと考えておりますが、小さな村では当然できないわけがございます。そこで、先程申し上げましたように、やはり東和地区、宇陀市、特に宇陀市立病院を中心とし、曾爾村、御杖村も含めまして、そういった広域的なケアシステムの構築に向けて、ぜひ取り組んでいきたいと思っております。また、この後、テーマ2で奈良モデルについての話もございますが、県の協力もいただきながらぜひ進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p>	

意見⑤	<p>伊藤御杖村長</p> <p>先程、報告させていただきましたように、御杖村は健康長寿ということで進めておりますが、報告させていただいた以外にも、皆さん、生きがいを持っておられるのではないかと考えております。その一つとして、道の駅に併設している直売所での野菜などの販売があります。百数十名の方が会員となって野菜や家でつくったものを販売されていますが、会員の中に高齢者の方がたくさんおられます。売れたらお金になるということも嬉しいと思いますが、買っていただく方との販売を通じての会話、そういったものも生きがいの一つになっているのではないかと考えております。</p> <p>それと、小さい村ですが、地域密着型の施設と、ケアハウスの2つの施設がございます。そういったところと連携をしまして、デイサービス等、できるだけきめ細かくサービスができるように今取り組んでいただいておりますが、さらにこれを強化し、村民の皆さんが安心して過ごせるように取り組んでいきたいと考えております。</p>
-----	---

意見⑥	<p>奈良県立医科大学健康政策医学講座 今村教授</p> <p>今回4市町村のお話を伺って、地域包括ケアシステムが一番近い場所なのだということを感じました。医療があまりたくさんあるわけでもない中で、今、地域の方々が力を合わせて何とかこれを支えていこうというシステムがつけられていて、介護に必要なものもあり、その上で待っている方も少ないという状況をつくっていることは本当にすごいことだと思います。そういう意味では、今、医療は地域完結型の医療、地域型の介護というのを目指しているわけですが、その形がかなりできているように思いました。</p> <p>また、住民の方々が積極的に様々な事業に社会参加し、そのことで病気も少なくなって医療保険料や介護保険料が安くなっているということも、なかなかすばらしい話かと思えます。</p> <p>ただし、今後のことを考えると、地域完結型と、今度、広域でやっていくということも必要になってくるのではないかと思います。今の人口体系も変わっていきますし、今働いておられる方も年をとっていきます。そのときに今の体制だけで続いていけるかという、なかなかそうはいかないということもあります。また、奈良県の都市部でもどんどん高齢者の方々が増えていきますので、今、域外に出ている方々もなかなか出にくくなっていくように思います。また、大阪から奈良にたくさん来られるかもしれませんし、今、地域創生の流れの中で、高齢者の方に地域に住んでいただくという話もあります。そういった意味では、広域で考えていくことも今後は必要になってくるのではないかと感じます。</p>
-----	---

総括	<p>くらしと文化研究所 音田主宰</p> <p>まず、荒井奈良県知事からは、奈良県の高齢化が非常に急速に進んでいるという現状についてのお話、そして、今後地域での医療構想と地域包括ケアシステムが非常に重要になるのではないかとのお話がありました。それを受けまして、県の中でも高齢化の進み方が非常に速く、人口減少も進んでいる地区での取り組みということで、竹内宇陀市長、窪田山添村長、芝田曾爾村長、伊藤御杖村長から、それぞれ独自の取り組みについてお話をいただきました。</p> <p>宇陀市では、今、医療介護あんしんセンターを中心として、地域包括ケアシステムのモデルになるような全体構想が策定され、進んでいるということで、これは東部地区としても大変注目される取り組みとして大いに期待されると思います。</p> <p>続きまして、山添村、曾爾村、御杖村、それぞれ独自の工夫をされた取り組みをご紹介いただきましたが、共通して感じられましたのは、やはり高齢者の方ができるだけ病気にならず、元気でいられるように、病院の先生、看護師、保健師、いろいろな方を総動員して、健康、予防に重点を置いたきめ細かい指導や栄養相談、病気の相談にきめ細かく当たっておられるということです。また、地域の中でサロンのなものを開いていろいろな催しを行ったり、みんなが集まる場を設け、そこで生きがいにつながるような活動をし、また体を動かしてもらって、そういったことで健康寿命をできるだけ延ばしていこうという取り組みを積極的に行っておられるということで、大変すばらしいと思いながら聞いておりました。</p> <p>でも、確かに、今村先生もおっしゃいましたように、この地域だけで完結する形での取り組みでは、いずれ限界が来るということもありますので、これからは、奈良モデルの中で大きな地域での医療や介護の問題をどのように考え、捉えていくのか、また、この東部地域の中でも、それぞれの市や村の独自のやり方だけではなく、県との連携とは別に、地域間の連携ということもこれから重視していただいて、さらにすばらしい取り組みを進めていただけたら大変良いと思い聞いておりました。</p> <p>御杖村は人口も非常に少なく、また、高齢化率も高いですが、男性も女性も65歳以上の平均自立期間が県内で最も長く、順位も1番です。今日、この会場では女性の方がすこし少ないと思いましたが、山添村や曾爾村にしても、県の平均よりも健康寿命の長い方たちが大変多いということは、それだけ皆さん、自立したプランを持って元気に頑張っていってらっしゃるという印象を受けました。これからは引き続き、奈良モデルの考え方に沿って、それぞれの町村や市で医療・介護・健康づくりの取り組みを進めていただきたいと思えます。</p>
----	--

【テーマ2】「協働と連携のまちづくり・奈良モデル」

挨拶・資料説明	<p>荒井奈良県知事</p> <hr/> <p>資料説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方自治のあり方の変化(「地方分権」から「住民自治」へ)</li> <li>・「奈良モデル」とは</li> <li>・県と市町村との協定締結によるまちづくり</li> <li>・奈良県と宇陀市との「まちづくりに関する包括協定」</li> <li>・公共交通の確保</li> <li>・消防の広域化</li> <li>・循環型社会の構築(ごみ共同処理) など</li> </ul>
取組説明 ①	<p>竹内宇陀市長</p> <hr/> <p>宇陀市の現状と行政の取り組みについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良県と宇陀市との「まちづくりに関する包括協定」</li> <li>・榛原駅周辺のまちづくり</li> <li>・宇陀松山周辺地区のまちづくり</li> <li>・うたの古市場周辺地区のまちづくり</li> <li>・室生寺門前及び室生口大野駅周辺地区のまちづくり など</li> </ul>
取組説明 ②	<p>窪田山添村長</p> <hr/> <p>山添村の現状と行政の取り組みについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大和まほろば広域定住自立圏共生ビジョン</li> <li>・天理市との定住自立圏形成協定による広域連携事業の取り組み など</li> </ul>
取組説明 ③	<p>芝田曾爾村長</p> <hr/> <p>曾爾村の現状と行政の取り組みについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・僻地市町村指導主事共同設置事業</li> <li>・戸籍システムの共同利用</li> <li>・日本で最も美しい村連合に加盟する3村(曾爾村・吉野村・十津川村)の協働と連携 など</li> </ul>
取組説明 ④	<p>伊藤御杖村長</p> <hr/> <p>御杖村の現状と行政の取り組みについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良モデルの検討・実施について</li> <li>・橋梁(橋)の長寿命化対策</li> <li>・税金の滞納整理</li> <li>・一般廃棄物(ゴミ)処理の広域化計画 など</li> </ul>
取組等説明	<p>近畿大学総合社会学部・まちづくり系専攻 久教授</p> <hr/> <p>テーマ「協働と連携のまちづくり・奈良モデル」について取り組み等説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あわせ技による効率的な行政サービスの提供</li> <li>・バスと宅急便の共同利用</li> <li>・水道料金の徴収と福祉の見守り活動 など</li> </ul>

意見① 荒井奈良県知事

市町村との協働と連携のまちづくり、とりわけ県との関係では2つのテーマがあると思います。

1つは、行政効率化の連携でございます。行政効率化のために、合併の代替として、連携・協働、奈良モデルということを考えました。宇陀市では、下水道を流域下水道に回しましたが、これは連携・協働に奈良県が間に入り、流域下水道を負担してもらうということが成功した例でございます。その他に、橋梁の点検や行政事務など、行政効率化のための連携・協働が進んでいるように思います。

もう一つのテーマは地域の振興ということでございます。都市は都市の、田舎は田舎の振興方策がありますが、基本は、地域にある資源の活用ということだと思います。この地域にはどのような資源があるだろうかと考えながらお話を聞いておりました。

幾つか今進んでいるものも含めて御紹介したいと思いますが、1つは、景観です。自然は放っておくと普通ですが、手を入れるとすばらしい景観になる可能性があります。奈良は、「四季彩の庭づくり」ということで、51の小庭をつくろうとしています。曾爾村には、屏風岩公苑がありますが、植栽計画により、10年後には、色とりどりの庭をつくろうとしております。また、宇陀市には又兵衛桜もございまして、景観の威力はすごいものです。

もう一つのテーマはスポーツですが、この地域では自転車が人気で、全国的にも評判になっております。高原を颯爽と走ろうということで、大和高原を自転車道にしようというプロジェクトも進めております。自転車でこの高原を走って、折々、宿泊所を渡るというプロジェクトでございます。

もう一つは食です。宇陀市にもおいしいおそば屋さんがありますが、この地域は食材は豊富であるのに、食になかなか結びつけられない面がございます。一方、桜井市の「オーベルジュ・ド・ぶれざんす 桜井」は、昼間はずっといっぱいです。あのようなレベルのレストランをつくと、田舎や山の上にも人が来るということが証明されました。モデルになったのは、CIAというアメリカにある世界のトップクラスのシェフ養成学校ですが、間もなくCIAの方が「なら食と農の魅力創造国際大学校」や併設されているオーベルジュに見学に来られます。世界に名をはせる食の大学校が桜井の山の上に来たということで、光栄なことでございます。

もう一つは泊です。ホテル、宿泊所ですが、アマンというホテルがございます。世界の超富裕層を対象としたホテルで、世界に40カ所くらいあるのですが、1泊で大体10万円を超えます。そのホテルの創業者であるゼッカーというインドネシア人が先日、奈良に来られました。曾爾村の山の中をお見せしたところ、関心を持たれ、曾爾村を一つの候補にされました。そのアマンというホテルは世界中で有名ですが、ブータンにも5カ所のアマンがあります。そのような田舎にあるのであれば、曾爾村ではもっとにぎやかになるだろうとおっしゃられました。ゼッカーは世界ではなかなか有名で、アマンジャンキーと呼ばれる、世界の超富裕層で、総資産が6,000兆円あると言われていたような追っかけが40万人います。そのような方々がこの奈良の田舎に目をつけてくれた。実現するかどうかはまだまだわかりませんが、とにかく本人が見に来てくれたということが一つ大変嬉しいことでございます。

泊の中では、榛原にホテルがあればよいと思いますが、もう一つ、最近はやっているのは民泊です。古い民家の中でも、居心地の良い民家をつくって宿泊してもらおうと思います。宿泊もあまり儲かる商売ではありませんが、地域を良くして人に訪れてもらうということからすると、民泊も大事でございます。民泊に対しては既存の旅館が反対されることが多いのですが、サービスを良くするのは、民泊も旅館も競争でございます。明日香のよい民泊はとてはやってきております。修学旅行生や外国人の学生を民泊で分宿してもらおうということが、奈良県でも洞川や明日香村ではやってきております。宇陀市でも一つのテーマだと思います。

もう一つは若者の居場所です。1つは学校ですが、榛原の昇陽高校でも、ここに留まってほしい、あるいは外から来てほしいというテーマがございますし、もう少し上の大学校のようなものがこの周りであればということもございます。

もう一つは、まちづくりの中で、榛原のまちは、横に細長いですので、細長くても居心地が良いまちにするというテーマがあるように思います。

最後に、地域を盛り上げる一つの切り口はイベントですが、南部でも奥大和ゆうゆう祭など、いろいろなイベントを行っております。この地域は、様々な薬草や北畠親房、久保本家酒造のお酒など、いろいろな資源がございますので、そういったものを利用して、奈良県では今度、平城宮跡で大立山まつりというイベントをします。地域でイベントをすると注目されますが、イベントをどんどん新しくしないとあきられてしまいますので、伝統のある民族的な歴史や文化資源をイベント化するというのも切り口だと思います。皆様のお話を聞いておまして、地域振興の切り口と感じましたところを思いつくまま御紹介させていただきました。地域振興のために、県も一緒になって頑張らせていただきたいと思います。

意見②	竹内宇陀市長
<p>県との連携協定ということですが、私も市長の職責をさせていただいてから、地域振興をするためには、やはり産業や雇用が大きなファクターを占めるのではないかと考えております。その中で、健康もまた地域の大きな行政課題と考えております。そこで、都市等との経済的な循環をどのようにすればよいか、そしてまた、都市の方々が宇陀市へ来ていただいて、どれくらいの満足感を持っていただけるのかということも大きな行政課題として取り組んでまいりました。ですから、奈良県と宇陀市とのまちづくりに関する包括協定の中でも、経済的な循環をつくれるように、また、都市の方々にこちらに来ていただいて、薬草や自然を愛で満足し、帰っていただき、そしてまた、できれば宿泊していただけるような仕組みづくりを主眼に考えてきたところでございます。</p> <p>その中で、大きな体育館がございまして、還暦野球大会もさせていただいておりますし、昨年の夏には近畿総体の空手道の選手権大会も知事の肝いりで開催させていただきました。そういったものや、自転車、スポーツツーリズムを含めた、トータルの仕組みづくりをさせていただけたらと考えております。</p> <p>そして、先程、荒井知事からお話ございましたが、宇陀市という地域は大和川や淀川の源流域で、本当に空気や水のきれいな地域でございますので、その中で育まれた高原野菜、有機野菜、減農薬野菜等のブランド化を促進するとともに、6次産業化により地域ブランド商品として販売し、それを何とか都市の方々に安心して食していただける、また、宇陀市へ来ていただいて食していただけるような仕組みもつくっていただけたらと考えております。そして、先程の話にございました薬草も含めて、奈良県と連動しながら薬草そのものを病気予防のための食材として食べられるような、薬事法の範囲外の新しい魅力というものも、これからつくっていくことができると考えております。</p> <p>そのようなことも含めて、奈良県と協働しながら取り組んでいきたいと思っております。ある一定の財政基盤が整ったとはいえ、資金的には相当厳しい状態ですので、大きなプロジェクトをするためにはやはり奈良県の支援が欠かせません。また、東部地域のメイン施設、メインスポットとして、宇陀市、宇陀郡がしっかり東部地域の観光振興に寄与できるような仕組みをつくっていきたくと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。</p>	

意見③	窪田山添村長
<p>山添村ですが、今、一番頭が痛いのは、先程からもお話しておりますように、少子高齢化、人口減少社会に適切に対応していくためには、結婚、それから子育て、切れ目のない支援を、この圏域の魅力や働く場の創出において考えていかななくてはならないということです。定住人口、それから交流人口を増やしていくというようなことで今後も考えてまいりたいと思っておりますが、なかなか難しいところでございます。</p> <p>保育園跡を県の御支援をいただいて一部改装したり、ソフト的な支援をいただきまして、かすががーでんというスペースをつくりました。山添村におきまして耕作放棄地がたくさんあり、以前よりも増えております。これは高齢化や人口減少により、農業が低迷化しているためです。それらの耕作放棄地を何とか解消するためにも、都市から若い人に、年間、何回か定期的に来ていただいて、耕作放棄地を耕し、そこでサツマイモなどの野菜をつくったり、収穫をしたり、かすががーでんで食事をつくったり、都市との交流を含めて現在行っているところでございます。</p> <p>そして、その中で、2、3組が山添村に住んでみたいということで、定住しつつあります。住民票もこちらへ移していただいて住んでくれています。ですので、こういった取り組みをこれからも増やしていかなければならないと思っております。1回開催しましたら30人から40人程度来てくれるわけですので、観光協会や地域の代表者で一生懸命そのような取り組みを進めております。</p> <p>また、山添村には2つのダムがあり、1つは農林水産省、1つは水資源の関係でございまして、この2つのダムを活かして、自然豊かなところで住んでいただき、人口を増やしてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>	

意見④	芝田曾爾村長
<p>曾爾村は平成の大合併では合併できなかったわけでごさいます。今後、単独村として生き残っていくためには、行政経費を少しでも抑え、また、効率の良い行政を進めていくことが大変大事であろうと思っております。そのことから、奈良モデルをさらに進化させていただきながら、近隣の市町村との連携、また、協力を進めていくことが不可欠であろうと考えております。</p> <p>幸いにいたしまして、曾爾村、御杖村では曾爾御杖行政一部事務組合、また、桜井宇陀広域連合もごさいます。曾爾御杖行政一部事務組合では、火葬場、学校給食、また視聴覚教育を共同処理しております。また、桜井宇陀広域連合では、ふるさと振興事業により、広域観光や情報発信事業、そして介護保険の介護認定審査の共同処理をしておりますが、今後もこれらの組織を活用しながら新たな事業の広域処理、また、共同設置を進めていかなければならないと考えているところでございます。特に桜井宇陀広域連合では竹内宇陀市長のリーダーシップを期待しております。よろしくお願いいたします。</p>	

意見⑤	伊藤御杖村長
<p>御杖村も合併できませんでしたが、小さな村で財政力も弱い中、近隣市町村との連携というものは大変重要ではないかと思っております。その中で、今、奈良モデルという新しいスタイルが出来てきております。この奈良モデルの枠組みの中で、村といたしましても県と協働・連携していきながら取り組んでいきたいというように思っているところでございます。</p> <p>御杖村は、風光明媚なところがあるわけでもございませぬ。しかしながら、よく考えてみますと、いろいろと地域には魅力のあるところがあるのではないかと思っております。なかなか住民の人が気がつかない部分もあるのではないかとはい思いますが、都市の方との交流を図る上でも観光資源として活用できるのではないかというように思っているところでございます。先程も申し上げましたように、今後、県とまちづくりに関する連携協定を結ばせていただき、さらなる資源の開発に取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>	

意見⑥ 近畿大学総合社会学部環境・まちづくり系専攻 久教授

奈良モデルというよりも、どちらかというと、地域の活性化のお話を最後にさせていただきたいと思いません。実は、近畿大学の東大阪キャンパスは、この周辺の近鉄の駅と同じ沿線にあります。なぜその話からさせていただいているかという、近畿大学には2万人強の学生が通っていますが、この2万人強の学生のほとんどが、榛原のことを知っています。なぜかという、準急の榛原行きが何本も通っていくので、榛原は名前としては知っています。しかし、私が授業の中で、「榛原は知ってるよね、ちなみに何市でしょう」と聞くと、ほとんどの学生が答えられません。「宇陀市ですよ」と私が返すのですが、さらに、行ったことありません。駅の表示板に1時間に何本か必ず榛原という名前が出てきて、2万人の学生が知っている、でも宇陀市にあることも知らないし、行ったこともない。これはすごくもったいないと、いつも思っています。そういう意味では、もっと様々な形で広報していくということがポイントかと思えます。すぐに効果は出ないかもしれませんが、ポディーブローのようにじわじわときいてくるのではないかと思います。

ちょっと私ごとになりますが、近畿大学は、今、受験生が日本一になり、広報戦略で新聞やメディアにたくさん出ています。近畿大学の名前を売ってもらっています。1月3日の新聞広告は見られましたでしょうか。「パチモンでんねん」というウナギ味のナマズの広告を出しましたけれども、あれでまた何人か受験生が増えるのではないかと思います。そういう意味では、この宇陀地域が広域的にいろいろな広報戦略をとっていくということも一つ考えられると思います。

先程、窪田山添村長から、2軒の方々が移住されたというお話がありましたが、私は、これはネタにできるのではないかと思います。こういう地域の活性化をお伝えするときに、その2軒の方々の状況や暮らし方をグラフにして都会にPRすると、こんな暮らし方ができるのか、こんなに良い生活ができるのか、こういう思いで引っ越しされたのかということが非常によくわかります。だから量ではなくて、そういうほんの些細なことでも、どのように大きくPRしていくかということがポイントだと思います。

具体的に言うと、今、地方創生でトップランナーの一つである徳島県の神山町がありますが、この前、学生を連れて行かせていただきました。神山町の方には少し失礼な言い方になるかもしれませんが、普通の田舎です。普通の田舎ですが、全国から注目されて、たくさんの方が移住しています。自然豊かなところというのはどこにでもあります、何が魅力なのかと思い考えてみると、人なんですね。魅力的な人、元気な人が集まってくる、そうすると、またそういう人たちと一緒に暮らしたいという人たちが集まってくるということです。最初は何人かからかもしれませんが、それがどんどん雪だるまのように広がっていきます。ですから先程、山添村の場合は2軒というお話を聞きましたが、この2軒を10軒、10軒を20軒、50軒、100軒にしていけば、神山町のようにどんどんどんどん大きくなるのではないかと思います。

ただ、こういう地域の活性化をお伝えしていて、一番のネックは、空き家があっても貸してくだらないということがあります。これが神山町の場合は、どちらかというと、地域の方が外の方にウエルカム、どんどん来てくださいということになっているというのも一方ありますので、PRしたら今度は受け入れ側が温かく外の人を受け入れていただくというような状況が出てくれば、チャンスだと思います。都会、特に若者が田舎暮らしをしたいと思ってますので、そういうチャンスを活かしていただければ嬉しいと思います。また、知恵を貸してほしいという際には、お声かけいただきましたら、いろいろな形でお手伝いさせていただきたいと思えます。

総括	くらしと文化研究所 音田主宰
	<p>協働と連携ということをキーワードとする、奈良モデルという形でのまちづくりをテーマに、荒井知事からは、奈良県の現状と、県内の市町村と対等な立場で知恵を出し合ってまちづくりを進めていきたいというお話がございました。</p> <p>竹内宇陀市長からは、最近締結したばかりの、奈良県と宇陀市との包括協定によるまちづくりについて、それぞれ4つの地域のコンセプトに基づいたお話がございました。地場産業や薬草、そういった地域の資源を大切にしながら、また、スポーツツーリズムなども入れて進めていきたいというお話も大変力強く聞かせていただきました。</p> <p>窪田山添村長からは、まちづくりにおいて、広域的な取り組みを進めておられるというお話で、また、天理市等と一緒に結んでおられる「大和まほろば広域定住圏」のもとに、様々な取り組みを進めておられるというお話がございました。</p> <p>芝田曾爾村長からは、教育行政に関する指導主事の共同設置等の取り組み、それから、広域観光圏に向けた取り組みとして、「NPO法人日本で最も美しい村連合」との連携についてのお話がありました。また、曾爾村では、行政の効率化のための連携・協働という意味で、いろいろな形での取り組みを進めておられる印象を受けました。</p> <p>伊藤御杖村長からは、奈良モデルの取り組みとして、橋梁の長寿命化対策、戸籍システムの共同利用、税金の滞納整理といった、どちらかというと、行政の効率化のための連携・協働の取り組みについてのお話だったと思います。こういった面では、奈良モデルとしての取り組みはまだ幾らでも可能性があると思いますが、地域の振興につながるようなまちづくりに関しては、まだまだ多くの地域でいろいろな知恵を出し合っていかなければいけないと思います。</p> <p>荒井知事が地域にある資源の活用ということで、幾つかの資源を上げられました。景観、スポーツ、食料、泊です。それから最後に上げられた若者の応援ということですが、これは5つとも大変非常に重要なこれからのヒントになるのではないかと思います。山添村で進めている定住促進の取り組みもそうですし、それから今日のお話にはありませんでしたが、御杖村で地元の小・中学生を対象に地域を見直してもらって、定住、そして将来そこで子育てをしてもらおうという、御杖村寺子屋事業という取り組みを奈良県立大学の学生さんと共に行っておられ、これも大変すばらしいと思いました。宇陀市でも、やはり奈良県立大学と提携を結んで、室生寺のライトアップのアンケートや、まちおこしについてのいろいろな相談に乗ってもらっているようですが、こういった若い世代の方たちの力を取り入れて、地域おこし、まちづくりにつないでいくということは、これから山間部の地域が元気になっていく一つの起爆剤になるのではないかと思います。</p> <p>空き家情報についても、ホームページ等を見ますとたくさんあります。今日お話しにあった東部の各市や村の情報もたくさんあります。ですから、これからは、先程久先生のお話でもありましたように、いかに上手にアピールして、地元にいる人たちはもちろんですが、地元の外からもっと移住してくる人を呼び込み、また、定住していく人口を増やしていくかということも、やはり元気の源ではないかと思いつながりながら話を聞かせていただきました。</p>

挨拶	荒井奈良県知事
<p>今日は、この地域の振興あるいは行政の持続力維持というようなテーマで、大変勇気づけられる内容でございました。各市村長様からは、大変前向きで積極的な意見が出たように思います。今までは、「県、何とかして」と連続して電話がかかってくるのがよくありました。「自分でどうするのか」と、このように答えて何年もたつのですが、今日は、「自分でこうするから県、助けて」という感じを受けましたので、県もあまり立派な強い財政ではありませんが、先程申し上げましたように、ここ10年間で貯金を重ねて地域振興につき込もうかと思っております。</p> <p>県は、なけなしという程ではありませんが、ある資源を、このように共同して練られたプロジェクトにつき込もうということが基本でございますので、ありきたりではなく、地域で考えているということを見せていただく必要があります。今日は、この地域で、どのようにしたいかということが大分感じましたので、さらに練ってそのようにさせていただきたいと思っております。</p> <p>追加で2つのアイデアでございますが、この1月に東京の白金台というところで、情報発信の拠点として奈良の食材を使ったレストランを開業いたしました。大変雰囲気の良いレストランで、1階はショップで、奈良県のいろいろな物を売っていますが、そこに、この地域の、先程竹内宇陀市長が自慢されました宇陀の大和野菜を毎日でもよいので、県が送ろうかと思っております。宇陀の金ごぼうもよい料理をすると全然違う味になります。フロアは吉野杉のにおいがしております。そのようなことが進んでおりますので、この地域の産物を土産物も含めて売り込むようにしたいというのが一つでございます。</p> <p>もう一つは、御杖村に県の牧場がございますが、それをもう少し観光牧場にしようという構想がございます。これも来年度予算で登場いたします。このようにアイデアを公開して、県はこうする、では、こうしたらどうかというような意見交換を行い、その中に皆さんも、アイデアがあるなら、これもどうかというようにぜひ言っていただければと思う次第でございます。そうしますと、いろいろな地域で発展があります。ほかの地域とは違う良い発展ができるということを確認いたしました。この地域の発展のために我々県も頑張りますので、よろしく願いたします。</p>	